

資料 1

思川開発事業監理協議会・幹事会資料

平成24年2月3日

独立行政法人 水資源機構

目 次

1 . 平成23年度事業実施概要	1
2 . 平成23年度事業実施概要図	2
3 . 現地状況写真	3
4 . 進捗状況	6
5 . コスト管理	7
6 . 平成24年度予算	13

1 . 平成 2 3 年度事業実施概要

平成23年度予算額

- ・ 約7.3億円 （累計 約819億円 約44%） 累計額は、平成21年度までは精算額、平成22，23年度は予算額

事業概要

- ・ 付替県道工事、水理調査及び環境調査等を実施した。

主な進捗状況（平成24年1月末現在） 【 】は全体数量

- ・ 用地取得 【 375ha 】 : 累計約367ha、約98%の進捗
- ・ 付替県道 【 6.4km 】 : 引続きトンネル、橋梁工事等を実施。累計約4.0km、約63%の進捗
- ・ 県道改良 【13.1km】 : 0.2kmを実施。累計約12.4kmとなり、約95%の進捗

コスト増減

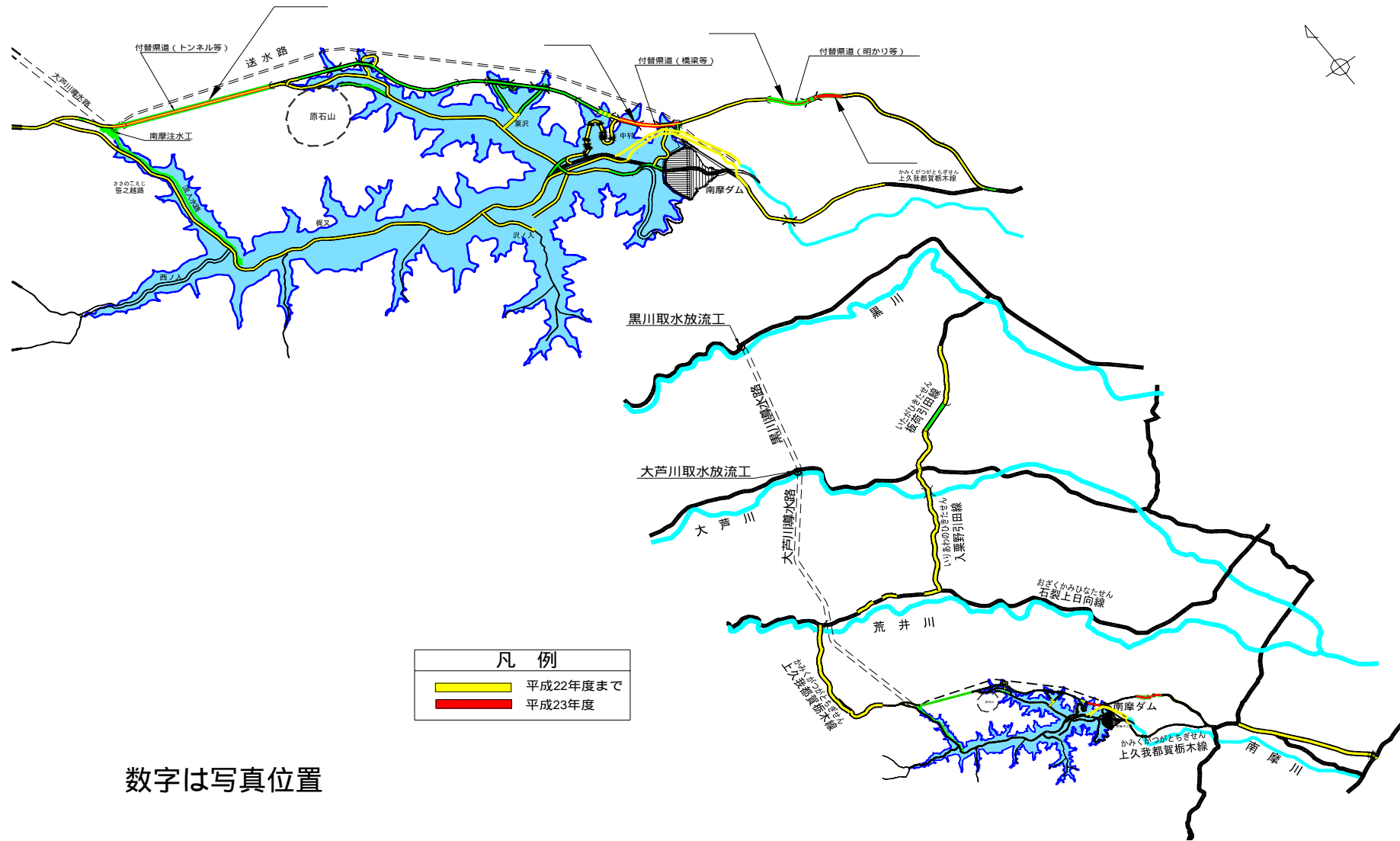
- ・ 平成23年度の事業執行において、設計の内部化による縮減を図った。（約 2百万円）
- ・ 平成23年度の事業執行において、トンネル工事における地質状況に応じた支保工の変更、法面対策工の追加等により増加の見込みである。（約 70百万円）

その他

- ・ ダム事業の検証については、平成22年12月20日に設立した「思川開発事業の関係地方公共団体からなる検討の場」において、平成23年6月29日に第2回幹事会を開催した。

コスト増減額は現時点での見込額であり、今後変更がありうる

2 . 平成23年度事業実施概要図



数字は写真位置

3 . 現地状況写真

付替県道1号トンネル

H23.06 上流側坑口



H24.01 上流側坑口



H23.06 下流側坑口



H24.01 下流側坑口



付替国道6・8号橋(完成)

H23.06



H23.09(完成)



H23.09 6号橋(完成)



H23.09 8号橋(完成)



付替県道杓子沢 5 工区

H23.06



H24.01



付替県道杓子沢 6 工区

H23.06



H24.01



4 . 進捗状況（平成24年1月末現在）

補償基準他	H13.12 損失補償基準妥結				
用地取得(南摩ダム) (375ha)	98% (367ha)				
用地取得(導水路) (3.159ha) 区分地上権設定含む	100% (3.159ha)				
家屋移転 (80世帯)	100% (80世帯)				
代替地造成	100% (31世帯)				
付替県道(約6.4km)	41%		63% (4.0km)		
県道改良(約13.1km)	92%				95% (12.4km)
ダム本体及び関連工事	仮排水路トンネル (H23.3完成)	基礎掘削	ダム本体工	管理設備	試験湛水
導水路、送水路 及び関連工事	黒川取水放流工 大芦川取水放流工	黒川導水路 大芦川導水路	南摩注水工	送水路	南摩機場

完成
契約
---- 付替県道

完成
契約
---- 県道改良

完成：工事が完成した道路延長比（未供用を含む。舗装,付帯設備の未施工を含む）
 契約：工事を契約した道路延長比

5 . コスト管理

(単位：百万円)

項 目	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3		合 計
コスト縮減	77	618	207	216	約 2		約 1,120

(単位：百万円)

項 目	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3		合 計
コスト増加	0	0	221	124	約70		約 415

(単位：百万円)

項 目	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3		合 計
業務執行上の結果 (低入札)	0	580	1,316	91	0		約 1,987

H 2 3 のコスト増減額は現時点での見込額であり、今後変更がありうる

平成 2 3 年度コスト増減総括表

(単位：百万円)

項目	施策内容	縮減額	主な縮減内容	備考
コスト縮減		約 2		
	計画・設計段階の見直し	-		
		-		
	施工段階の見直し	-		
		-		
その他		約 2		
	設計の内部化によるコスト縮減	約 2	技術経費、業務管理費の縮減	P . 9

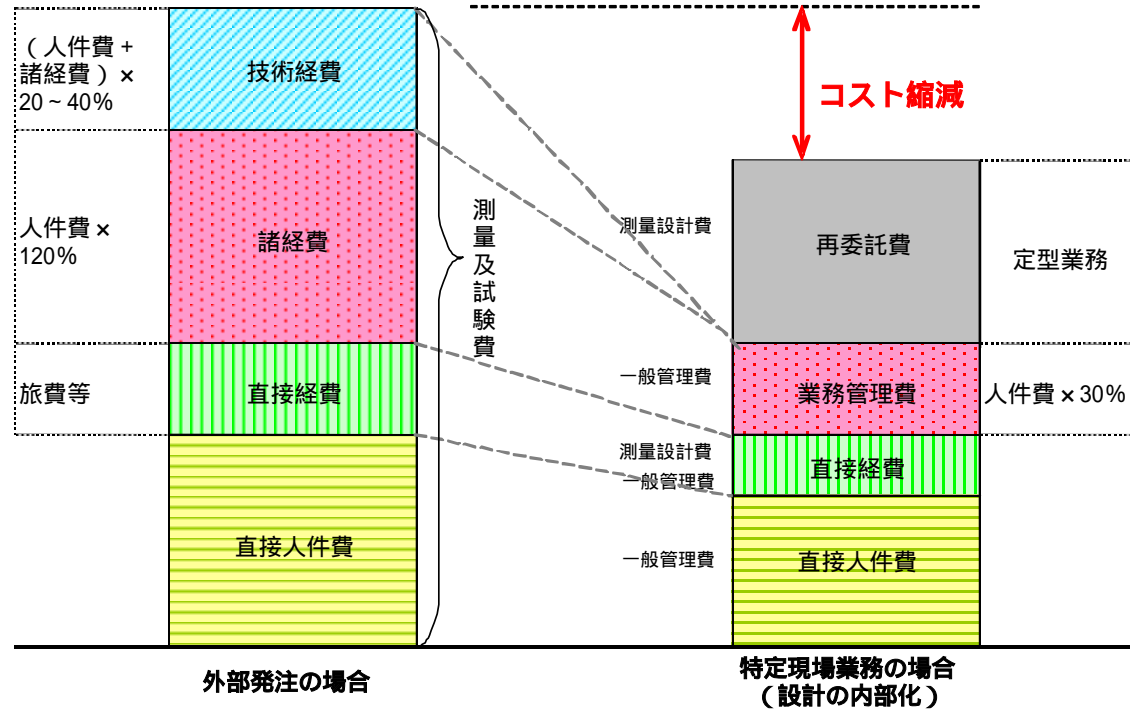
項目	施策内容	増加額	主な増加内容	備考
コスト増加		約70		
	地質状況に応じた支保パターン等の変更	約20	支保パターン等の変更	P . 1 0
	地質状況に応じた法面対策工の追加	約50	法面保護工の追加	P . 1 1、1 2

コスト増減額は現時点での見込額であり、今後変更がありうる

コスト縮減

設計の内部化によるコスト縮減

外部発注費と特定現場業務費（設計の内部化）の比較



平成23年度においては、外部発注予想額（請負比率考慮）8百万円、特定現場業務 6百万円となり、差額は 2百万円となる。

(縮減率 25%)

【コスト縮減内容】

基幹的設計等を外部コンサルタント等の請負とせず、機構内部において実施したことにより設計検討等に係る費用を縮減させた。

【コスト縮減の要因】

その他（設計の内部化）

【縮減額】 約 2 百万円 対象費目 [測量設計費]

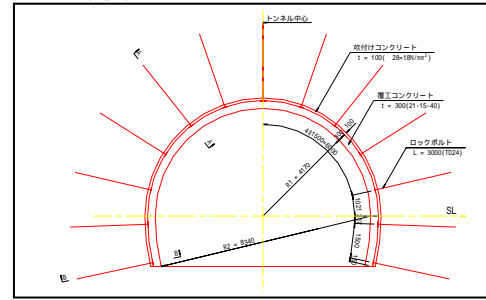
縮減額は現時点での見込額であり、今後変更がありうる

コスト増加

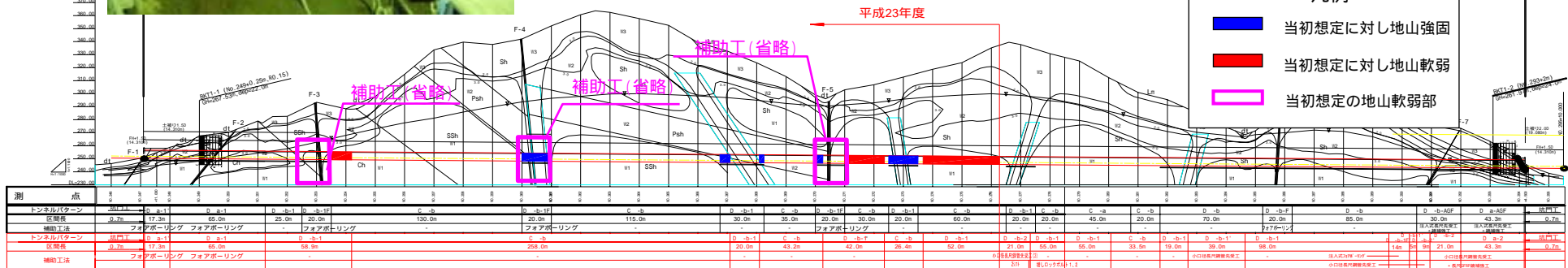
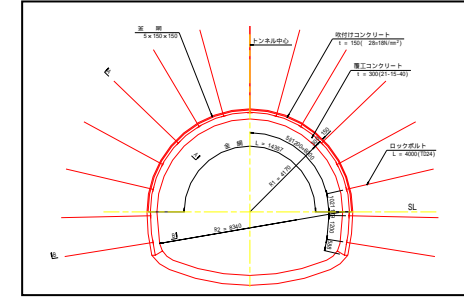
地質状況に応じた支保パターン等の変更



C -b断面



D -b-1断面



付替県道1号トンネル

【コスト増加内容】

トンネル掘削時の地山状況を風化の状況及び割目間隔、割目状態、湧水量等を観察・評価し支保パターンの決定をしているが当初想定していた地山より地質が悪い地山が多く、掘削支保パターンに見直しをおこない工事費が増となった。なお、本工事では想定された弱層部付近において「前方探査調査(DRISS)」を実施し判断することにより、安全に工事を進めるとともに一部の補助工を省略し工事費の増を抑制した。

【コスト増加の要因】

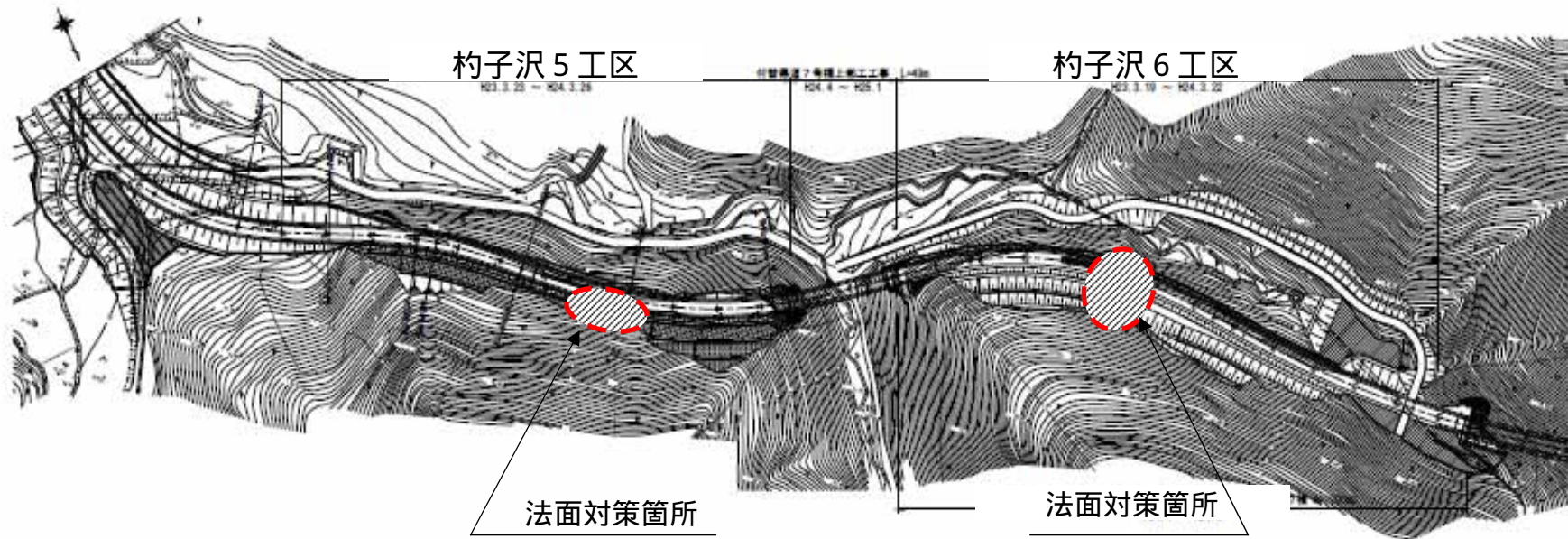
地質状況に応じた支保工等の変更

縮減額は現時点での見込額であり、今後変更がありうる

【増加額】 約20百万円 対象費目[用地費及補償費：補償工事費]

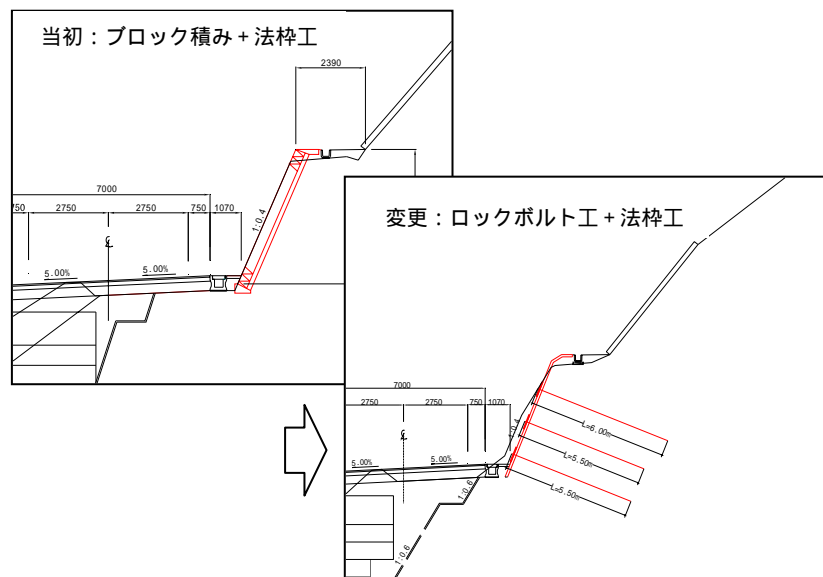
地質状況に応じた法面对策工の追加

付替県道杓子沢5, 6工区 位置図

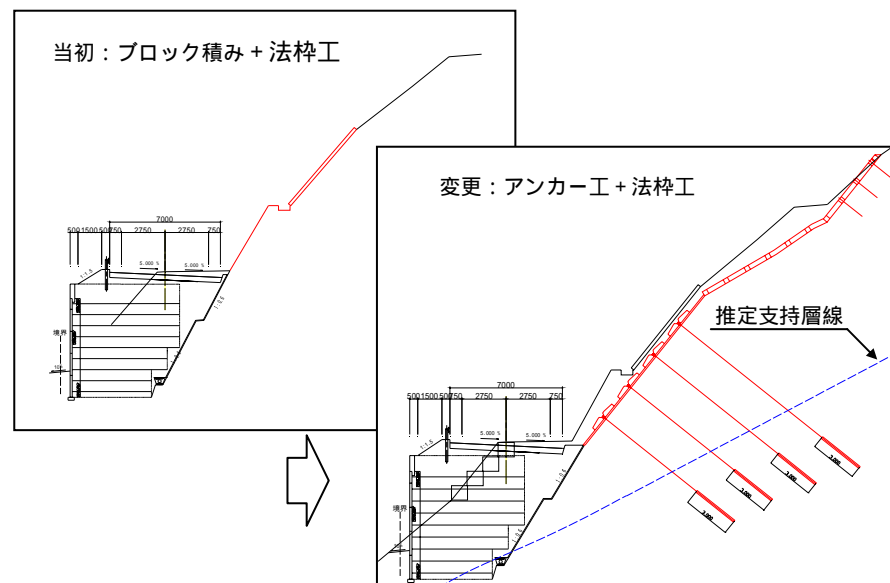


地質状況に応じた法面对策工の追加

【杓子沢5工区法面对策】



【杓子沢6工区法面对策】



付替県道杓子沢5工区

【コスト増加内容】

地質状況により不安定土砂部が見られ、下段掘削時が法面が不安定となり崩落の恐れがあり安全を考慮し法面对策工（ロックボルト工）を追加する必要から費用が増額となった。

【コスト増加の要因】

法面对策工の追加

【増加額】 約11百万円

対象費目 [用地費及補償費：補償工事] [測量設計費]

付替県道杓子沢6工区

【コスト増加内容】

道路法面の一部に崩落が生じたため、復旧工として崩落法面对策工（アンカー工）を追加する必要から費用が増額となった。

【コスト増加の要因】

法面对策工の追加

【増加額】 約39百万円

対象費目 [用地費及補償費：補償工事] [測量設計費]

増加額は現時点での見込額であり、今後変更がありうる

6 . 平成 2 4 年度予算

- 平成 2 4 年度予算については、平成 2 3 年 1 2 月 2 4 日に政府予算案が公表され、思川開発事業については 1 1 . 7 億円が計上されている。
- 思川開発事業は検証対象であり、平成 2 3 年度予算と同様に、基本的に、本体工事の段階に新たに入らず、地元住民の生活設計等への支障に配慮した上で、必要最小限の予算が計上されている。